

平成31年度 名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル

(診断方法、報告書作成編 伝統構法追加補足)

6-2 診断結果のまとめ (診断プログラム入力、方法2：伝統構法)

診断プログラム入力～保存の流れ

- (1) 診断員情報の入力
- (2) 建物概要入力
- (3) 劣化度入力
- (4) 壁仕様、外周入力

【例】 1階外壁入力⇒1階外周入力⇒2階外壁入力⇒2階外周入力⇒⇒2階内壁入力
⇒1階内壁入力⇒1階柱入力⇒1階垂れ壁入力⇒2階柱入力⇒2階垂れ壁入力
※入力順序に特に定めはありませんが上記の順序で入力すると効率的です。

- (5) 保存・計算

【注意!!】必ずUSB対応のメモリー媒体等に直接保存し、出力（印刷）する。

Wee2012 出力表紙下部のパス名が ○：¥ファイル名となるようにする
※保存ファイル名は半角で診断受付番号とする。(例 20190000.w12)

- (6) 最終ページ入力

総合評価（診断結果）は記入欄のみ『名古屋市診断報告書作成シート』に合せチェックしてください。
注意事項の入力は不要です。

～印刷～

印刷枚数が多いので、チェックは画面上で行い最終確認後に印刷する

以下、方法1との主な追加・変更事項のみ説明

- (1) 診断員情報の入力

- (2) 建物概要入力

基本設定

≪診断方法≫ 伝統的構法は方法2を選択

※伝統的構法を使用する場合は、必ず「伝統構法等選別チェックシート」で確認する。

建物概要

≪主要な柱径≫ 伝統的構法は120mm以上を選択

- (3) 劣化度入力

(4) 壁仕様、外周、柱、垂れ壁入力

各階平面の壁仕様・外周入力に加え、柱・垂れ壁の寸法を選択し入力

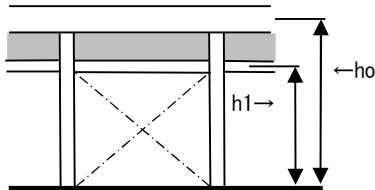
柱入力

新規	開く	保存	印刷	再表示	概要	劣化度	1階	2階	3階	外周	壁	柱	垂れ壁	計算
----	----	----	----	-----	----	-----	----	----	----	----	---	---	-----	----

垂れ壁入力

新規	開く	保存	印刷	再表示	概要	劣化度	1階	2階	3階	外周	壁	柱	垂れ壁	計算
----	----	----	----	-----	----	-----	----	----	----	----	---	---	-----	----

柱の小径(mm)		
<input checked="" type="radio"/> D<120	<input type="radio"/> 120≦D<135	<input type="radio"/> 135≦D<150
<input type="radio"/> 150≦D<180	<input type="radio"/> 180≦D<240	<input type="radio"/> D≧240
垂壁・腰壁の基準耐力(kN/m)		
<input checked="" type="radio"/> 垂壁のみ	<input checked="" type="radio"/> 1以上2未満	<input type="radio"/> 4以上5未満
<input type="radio"/> 垂壁・腰壁	<input type="radio"/> 2以上3未満	<input type="radio"/> 5以上6未満
	<input type="radio"/> 3以上4未満	<input type="radio"/> 6以上



一般診断法では垂れ壁を 柱脚から横架材心までの高さ $h_0=3.00\text{m}$ 、柱の曲げ区間長さ $h_1=2.25\text{m}$ 、柱の樹種 スギ（曲げ基準強度： $F_b=22.2\text{Mpa}$ ）を想定して、耐力を定めています。極端にそれと異なる場合は適用できません。

(5) 保存・計算

(6) 最終ページ入力

★★印刷★★

6-3 診断結果のまとめ

- (1) “Wee2012” の計算結果を “名古屋市診断報告書作成シート” に転記入力
- (2) “名古屋市診断報告書作成シート” の保存
- (3) “名古屋市診断報告書作成シート” の出力、印刷

“診断報告書作成シート” の “構造形式” で “伝統構法（方法2）” を選択すると、自動的に、【報告書印刷】が、伝統構法用になります。

(4) 平面図と写真を追加し報告書の体裁を整える

※平面図には、柱寸法、垂れ壁位置及び厚さ、高さ h_0 ・ h_1 （上記参照）、を記入する。

(5) 出力チェック表で内容をチェックする



もういちど再確認！

－診断報告書作成時の注意事項－

- ・『2012 年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法』では適用範囲として、在来軸組構法、伝統構法の他、枠組壁工法や木造と他の構造の立面的な混構造住宅の木造部分、また建物階数が3階建まで適用範囲が拡大されていますが、診断業務の対象となるものはあくまでも在来軸組構法と伝統的構法の2階建までの住宅のみとなっています。
- ・診断プログラムでは計算可能な枠組壁工法や3階建は名古屋市の耐震診断事業では対象外です。また、平面的な混構造は診断プログラムに対応していません。
- ・診断プログラムは必ずバージョンアップして使用してください。起動時に表示されるバージョン情報を確認してください。(2018/04/01 現在 Ver1.2.0)
- ・診断プログラム“Wee2012”のモジュールは 900～1,000 としてください。診断員の判断で300・450グリッドなどを使用することはできません。特殊なグリッド（たとえば耐力壁が900未満しかないときなど）のときは耐震化支援室に事前協議してください。
- ・診断プログラムの壁入力が入力ルールによってください。独自の入力方法は不可です！
基本は **上段** 外壁又は内壁ボード、**中段** 筋かい、**下段** 土壁又はボード となります。

診断報告書作成ワンポイントアドバイス



- ・報告書作成シートは画面が1024×768ピクセル対応で作成してあります。使用しているディスプレイのサイズによって表示を調整してください。
表示→ズーム→倍率で調整
- ・報告書作成シートと診断プログラムを同時に立ち上げて、名前や住所などをコピー→貼り付けをする場合はエクセル側はセルごとコピーするのではなくF2キーを押して**セル内の文字のみ**コピーしてください。・・・**診断プログラム計算保存後に再読み込みが正常にできません。**
- ・セルの移動をツール→オプション→編集→入力後にセルを移動するに**チェック→下→OK**とすると入力がスムーズです。
- ・マウスを使用しないときの選択は**A l t**キー+↓キーで選択語↑↓キーで選択**E n t e r**できます。
- ・診断プログラムの壁入力は修正、追加のとき、既に入力した壁上で右クリックし修正を選択すると仕様入力欄に入力済の仕様が入力されますので、それを利用し再入力すると入力手間が省けます。
- ・報告時のアドバイスは報告書の3ページに基づいてください。改修案まで作成する必要はありません。
- ・(財)日本建築防災協会のホームページに本診断法に関する“質問・回答集”が掲載されていますので、こちらも参考にしてください。また、診断プログラム“Wee2012”に関するバージョンアップ等の情報も随時、同ホームページに掲載されていますので確認してください。